

## 『黒子』に秘められた奥深い意味を考える」

松田清人（大学院生、製薬企業勤務）

馬籠久美子様

ご講演ありがとうございました。

スライド資料の「黒子のつばやき」に、通訳者の心得：「淡々とよどみなく、川の水が静かに流れるように、ありのままに訳す」には、哲学的な境地を感じます。通訳のプロとしてだけでなく「寄りそわせてもらっている」というご回答がありましたが、なるほど！これが、ご自分を「黒子」としての存在と位置づけしている因かなと思いました。

「致知」という雑誌で、横田南嶺師（臨西宗円覚寺派管長）と対談された青山俊董師（曹洞宗、愛知専門女僧堂堂頭）が、「私は『よいことをさせていただく』という言葉あまり好みません。どうしても『何かのために』という認識が生まれてまいりますからね。むしろ天地いっばいに生かされているご恩返しとして、できるだけのことをさせていただきましょう、という姿勢でありたいと思っています。…」という言葉がありました。黒子に通じるのではないのでしょうか。

高橋幸男先生が、「有吉佐和子の『恍惚の人（1972年発売）』で、世の中の認知症に対するイメージが決定的にできてしまった。」とおっしゃられていました。おそらく日本の多くの（例えば認知症当事者が身近にいない）人には、「恍惚の人的認知症観」が強く残っているのではないかと思います。そこには、当事者の気持ちを聞く意識がなく（思いつかない）、何かをしてあげなきゃという、上からの目線が強いのではないかと思います。

私自身、ゆきさんの授業を聴き、丹野智文さんを知ることで、少しずつ変わってきていますが、まだまだ上からの目線があるのではないかと気にしています。町永さんの「solutionをもとめるのではなく、問いを立てることが求められている」という言葉に救われたような気がします。

本日のお話の中に出てきた“当事者”をよくご存じの皆さんは「恍惚の人的認知症観」を変えてきた方々です。丹野さんは、認知症当事者として Rights Based な行動をされている方だと思います。その行動と勇気に敬意を表します。仲間に対する配慮も感じました。「地元の当事者仲間がやってくれるからロンドンに行くことができる」という言葉を聞いた仲間がどんなにうれしく思ったのでしょうか。しかし、丹野さんの行動を良かれとっていない方々も多いと聞きました。英国にも ADI で働いている方（ヒラリーさんと聞こえました）が「権利という言葉を使わなくてもできるのであればよい。英国にもいろいろな意見があり胡散臭いと思っている人もいます。」という話を聞き、世の中がそれを気にするかしらないかが違いなのかなと思いました。

日本と欧米の違いと言っては言い過ぎかもしれませんが、「長い歴史の中で勝ち取ってきた欧米の権利意識」と日本のその間には、まだまだ乗り越えられない壁があるように思いま

す。タイタニックジョークというものをご存じでしょうか？救命ボートに乗れない人（特に男性）を説得する言葉を各国ごとに言い表したものです。英国人には「紳士ですから」と言い、独人には「ルールですから」と言い、米国人には「ヒーローになれます」と言う。日本人には「皆さんそうされています」と言うそうです。各国の国民性？を言い得て妙だと思えます。いずれにせよ、各地にそれぞれうまくいく方法があると信じています。

山崎先生の「権理（当たり前のコトワリ）」という表現を本日初めて知りましたが、欧米におけるような、周りを気にしない強い言葉ではなく、表現を柔らかくし納得性を高めた言葉になっているように感じました。同様に石川准先生も「合理的配慮」を「合理的環境調整」と読みかえてくださいと言われていました。理念を浸透させ身近に感じさせるため、日本に合った表現を工夫されているのだと思っています。

スコットランド（エディンバラ、インバーネス）を旅行した時イングランドとの闘争？の歴史も勉強しましたが、ジム・ピアソンさんが「ブレイブ・ハート」（私は好きな映画の一つです）を見るな。と言われた時のニュアンスはどうだったのでしょうか？ 大真面目であれば歴史の重みを感じ、半分冗談であれば時間が経てば変わり得るという感じを持ちます。後者であることを期待しています。着実に一步ずつ歩いていくことで変わっていく世の中であってほしいと思っています。

—————\*★\*—————\*—————\*★\*—————\*—————\*★\*—————\*—————\*★\*—————\*

マゴクミちゃんこと・馬籠久美子先生から、松田清人さんへ

ご感想ありがとうございました。

先月亡くなられた稲盛和夫氏が手掛けておられた「致知」という雑誌、存じ上げております。ティク・ナット・ハン師が再び来日することがあれば、稲盛氏と対談される予定でした。

青山老師は、ご指摘のような「天地いっぱいのお働き」という言葉を使って仏教的縁起を表現されています。何度か訳のお手伝いをさせていただく機会に預かっており、そのような感覚は多少なりとも私にも入り込んでいるものと思われま。

松田さんの洞察力に感服いたしました。

ヒラリー・ドクスフォードさんは、英国アルツハイマー病協会の中に存在している、英国3か国（イングランド、ウェールズ北アイルランド）認知症（本人当事者）ワーキンググループの共同代表で、数年前に来日されました。

英国内でも、イングランド、スコットランドでは権利志向に違いがあること、当事者活動者でも権利の捉え方、権利意識の押し出し方に差があることをお伝えしようとして言及いたし

ました。

日本の山崎先生の定義は、個人主義を超える権利の意味合いがあり、東洋的な感覚に触れて進化したものであるようにも感じます。一度、英国の知人とその話をちゃんとしたいと思っています。

タイタニック・ジョーク、教えてくださりありがとうございます！

「ブレイブ・ハート」は、これぞ、スコットランド気質というグラスゴーあたりの映画館で上映された時には、会場からすすり泣く声が響いたと聞いていますが、ジムは、1) スコットランドのプライドがアメリカ資本に食いものにされた、2) 暴力的なシーンが多くて真のスコットランド魂を表現しきれていない、というような意見でした。

大変申し訳ありませんが、おそらく前者の大真面目な方かと、...

私自身、そのようなスコットランドのプライドに触れるたびに、その強さと深さに驚きながら、身が引きしなるような思いで学んできているところです。

ご返信とお礼まで。

——\*★\*——\*——\*★\*——\*——\*★\*——\*——\*★\*——\*——\*★\*——\*

松田清人さんから：

ジムさんは芯からのスコティッシュなのですね。

グレートブリテン王国と戦った（1746 年のカロデンの戦い）ジャコバイト軍の心意気を持ったスコットランドの方は結構多いのかもしれませんがね。

ご丁寧なご返事ありがとうございます。